

平成22年度木のまち整備促進事業(第2回募集分)採択プロジェクト一覧

No	補助種別	プロジェクト名称	建設地	提案者(建築主)	講評
1	木造化	杉戸町立泉保育園園舎改築事業	埼玉県 北葛飾郡 杉戸町	埼玉県杉戸町長 古谷 松雄	町が計画する木造の子育て支援センターを併設する保育園の新築計画であり、地方公共団体による、地域に根ざした木造公共建築物整備の取組の先進事例となることが期待される。 準耐火性能を実現するための燃えしろ設計による構造材の現しや、床材、腰壁、建具等に木材を使用するなど、木質感を前面に出す設計となっており、保育園児を持つ若い親を始めとした地域住民に対する木材や木造建築物の良さの普及が期待できる。 また、構造材として用いるLVL材、集成材を始めとして、羽柄材、内装部材に至るまで、全て県産材の利用を提案しており、また、これを実現するため、隣接県と連携して木材加工体制を確保する点についても、他の取り組みの参考となることが期待できる。
2	木造化	蔵波台社宅プロジェクト	千葉県 袖ヶ浦市	吉野石膏株式会社 取締役社長 須藤 永一郎	枠組壁工法による単身寮の新築計画。 遮音性の高い床・壁構造の採用や設備配管の個別完全分離による共有部分と専用部分の明確化など、「分譲仕様」の木造集合住宅のプロトタイプを具現化する計画となっている。 また、耐火構造界壁とLGS壁(軽量鉄骨)の併用採用で耐力壁と非耐力壁を明確にし、将来のリフォームに柔軟に対応できる構造の提案となっている。 さらに、メタルプレートコネクタを使用した国産材(スギ)トラスや、床材への国産材合板の採用など、枠組壁工法への国産材利用の可能性を試みている。
3	木造化	都市部(狭小間口・近隣商業・準防火地域)における屋上ガーデン付木造ラーメン構造3階オフィスビルの建築	愛知県 名古屋市	株式会社ディーファクト 代表取締役 服部 進吾	大断面集成材を使用せず、コストメリットのある住宅用流通部材を使用した、準耐火構造での木造3階建事務所ビルの新築計画。 事務所ビルとして必要とされる、無柱のオフィス空間の確保のため、木質ラーメン構造を採用しているほか、荷重の関係から木造では困難とされる屋上庭園の設置など、木造建築の可能性を追求している。 また、燃えしろ設計によって3階部分の構造材を現しとすることにより木質感を演出し、交通アクセスの良い立地条件を活かしたセミナーや見学会を実施する提案となっており、普及効果についても期待できる。
4	木造化	(仮称)ケアポート若松建設工事	福岡県 北九州市	社会福祉法人聖恵会 理事長 浦谷夏樹	延べ床面積が2,000m ² を超える、60分準耐火性能を実現した2階建ての丸太組構法の有料老人ホームとして、全国で初めての建築物。 建築に用いるスギ材は、「輪掛け乾燥」によって天然乾燥した後、人工乾燥で含水率20%以下に安定させる2段階の乾燥方式を採用することとしており、化石燃料を用いる人工乾燥を必要最小限に抑え、乾燥過程における省CO ₂ 効果が期待される。 また、60分準耐火構造の床、壁仕様を採用することにより、丸太組構法における階数、用途の可能性を広げる提案である。